

共同利用・共同研究拠点

「絶滅の危機に瀕する野生動物（大型哺乳類等）の保全に関する研究拠点」

<拠点の目的>

日本で唯一の野生動物保全研究の拠点を構築することで、野生動物に関する研究を通じて地球社会の調和ある共存に貢献することを目的とする。その目的達成のための具体的な課題として、第1に絶滅が危惧される野生動物を対象とした基礎研究を通じて、その自然の生息地でのくらしを守り、飼育下での健康と長寿を図ると共に、人間の本性についての理解を深める研究をおこなう。第2に、フィールドワークやライフサイエンス等の自然科学分野に加え、人文社会科学分野などの研究を統合した学際的なアプローチによって、人間とそれ以外の生命の共生のための国際的研究を推進する。第3に、地域動物園・水族館や民間研究機関等との協力により、生息域外における保全研究を推進すると共に、環境教育を通じて人間を含めた自然のあり方についての深い理解を次世代に伝える。

<拠点の全体計画の概要>

本センター及び学内外の研究者によって構成される拠点運営委員会及び拠点計画委員会のもと、研究者コミュニティおよび動物園・水族館コミュニティからの要望を反映するかたちで、計画課題提案による共同研究活動を実施し、野生動物、特に絶滅の危機に瀕する大型哺乳類の研究や生態系保全、国際研究、人材育成および教育活動を推進する。また、共同利用機能の強化と共同研究支援のため、本センターが有する国内4か所、海外8か所の研究拠点と国内6か所の連携研究拠点や、これまでに蓄積してきた技術・情報・資料・試料等の共同利用を推進する。国内外の研究者との共同研究等を通じて、相互に連携し合いながら新たな学問領域を創生し、野生動物保全分野の発展および、自然のあり方についての深い理解に取り組む。

<拠点の目指す役割>

野生動物、特に絶滅の危機に瀕する大型哺乳類に関する地球規模での環境保全とそのための環境教育が求められていることから、京都大学伝統のフィールドワークの知識・技術や、ラボにおける最新技術・多彩な情報等をもとにした学術資源を整備する。また、学問分野の違いや専門化・細分化によって研究者相互の関係や社会への情報の発受信が希薄化しつつある現状を改善するために、共同研究の実施や共同利用研究会の開催をはじめ、研究資源や研究基地の利用等、国内外の研究者に便宜を提供することで研究者間や学術と社会との交流を高めると共に、野生動物の保全と飼育管理に関する科学研究の活性化を図る役割を担う。